

やけど

子供のやけどは、熱湯、みそ汁、スープなど熱い液体によるものが大半を占めます。また、炊飯器や電気ポットの水蒸気をつかもうとして手の平をやけどしたり、ストーブやアイロンに触ってしまい、やけどする場合があります。どの場所を、どのくらいの範囲でやけどをしてしまったか確認してください。子供は大人と違い皮膚が薄いため、やけどが深くなる可能性が高いです。やけどをした直後からヒリヒリと痛み出します。

<受診までの注意事項>

やけどをした場合は、まず水道水で10分～20分冷やします。水道水でゆるく絞ったタオルで冷やすという方法もあります。氷や氷水は冷たすぎて、皮膚を痛めてしまうことがあるので注意しましょう。市販のクリームなどはぬらず、濡らしたタオルをあてて受診してください。

<ホームケア>

やけど部分は治るまで湯船に入れないようにしましょう。石けんでよく洗いシャワーで流し、よく水分を拭き取ります。軟膏をぬり、貼りつかないガーゼを当てます。水ぶくれはやぶらないようにしましょう。

☆子供のやけどは、熱した食品や暖房器具など家庭内のごく身近なもので起こることが多いので、予防のために家の中で危険な場所はないか確認しましょう。

すり傷、切り傷

子供はよく転んだり、ぶつけて皮膚を傷つけてしまうことがあります。血がなかなか止まらない、傷が深い、傷に石や砂利が付いている場合は病院での処置が必要になりますので受診してください。

<受診するまでの注意事項>

消毒はしないでください。消毒は傷の周りの皮膚を傷めてしまうことがあります。傷口は汚れを取るために石けんと流水でよく洗い流します。傷に直接ガーゼを当ててしまうと、傷にくっついてしまうので、傷に貼りつかないばんそうこうやガーゼを当ててください。傷口を確認したり処置をするときに洗い流すのがとても難しくなってしまうので、市販のクリームや傷用パウダースプレーは使わないようにしましょう。血を止めるには、傷の上からおさえて圧迫止血をしてください。ひもで縛る止血方法は血液が流れなくなってしまうのでやめましょう。

<ホームケア>

傷は石けんを泡立てて優しくシャワーで洗い流し、傷に貼りつかないばんそうこうやガーゼを当てます。乾くとヒリヒリ痛むので乾かないようにする必要があります。うみやつゆが多い場合はご相談ください。

